

研究のあしあと 7

令和4年度 久美浜小学校研究推進部

令和5年1月

12月7日、今年度2回目の授業研を1年生で行いました。生活科としては初めてということもあり、学期末という時期で参観者の先生方も忙しい中ではあったと思います。

なにより、授業者の福富先生にとっては、研究主任として、学園連携部会の公開授業としても位置づいたものとなりました。本当にお疲れさまでした。



事前研にて

本時の展開、とりわけ、めあて設定について数多く議論されました。

- ・ 本時後半に提示することで、児童の主体的な姿勢を導き出すことを大切にしたいという、授業者の思い。
- ・ 「地域」という言葉では1年生に難しく、「身の周りの人」とした方が、イメージしやすいのではないかと、「児童からの気づき、これを引き出したい。」ということを中心に、本単元を組み立ててきた授業者の思いを汲み、当日を迎えることになりました。そこで、本時のめあてを2つ設定することにしました。

参観の視点は以下の2点でした。

- ①児童が主体的に課題をもって探求する授業について
- ②単元全体を通して、地域（自分の身の周りの人を含む）の人とのつながりを深めることについて

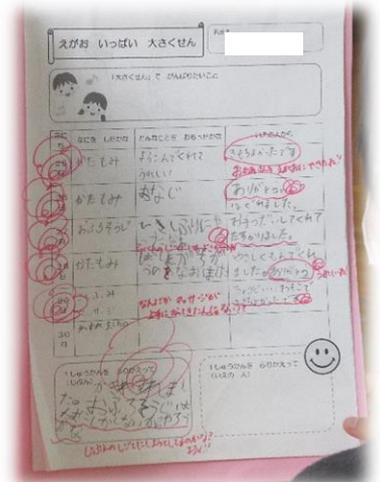
事後研にて

(1) 授業者より

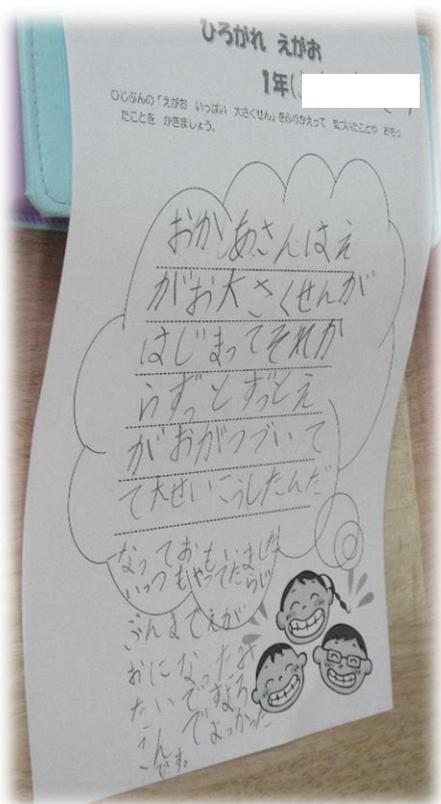
- ・ 2つのめあてを設定し、前半は笑顔いっぱい大作戦の振り返り、後半は発展的内容で広げることにした。
- ・ 緊張からか導入に時間を要したものの、後半は本来の子どもたちの姿が発揮された。
- ・ 笑顔いっぱい大作戦の交流がもっとたくさんできれば、後半の実践につながるような交流へとつなげられたかもしれない。
- ・ 保護者からの手紙は、本時の後配布し、思いを知ってうれしそうだった。

(2) 参観の視点に沿って

- ①・ 大作戦のよさ見つけをうれしそうに聞き合い、児童のつながりを感じた。
シートの書きぶりを見ても、主体的で自分でやりたいと思えていた。
- ・ 自分の行動が家族に伝わり、認められる→それをみんなで確かめる→そしてやってみたいことを広げるという展開で、意欲も積み上げていた。
- ・ めあてが2つだったものの、子どもの学びに沿ったもので、意欲につながっていた。
- ・ ワークシートなど、ていねいに評価がされ、たくさんのお花丸があった。これなら学ぶ意欲につながる。
- ・ 本時のワークシートが効果的で気づきが書きやすかった。



- ②・活動し、振り返ることを繰り返し行うことで、自分の行動が全体で共有され、よさを認め・学び合うことができるようになっていった。「役割」を果たすことで自己有用感、肯定感が高まり、他の人へも広がってこうとする態度へと変化していくことができた。単元構想の成果ではないか。
- ・今回の単元・授業では、ゴールに向けた筋道が明確だった。



(3) その他

- ・児童の相互指名による偏重があったので、必要に応じて教師が意図した指名を行うことで、改善できる。

〈授業者の振り返り〉 ※単元を終えて～事後研で学んだことや新たに実践したこと、今後の自己課題等

今回、初めて生活科の指導案作成を行った。気付いたことは、指導案作成時点で具体的に単元の終わりの「児童の姿」や「付けたい力」を指導者側が明確に持っていないと、全体の構想ができないということだった。(これまで研究していた算数科をはじめ、他教科でももちろんそれは前提として組み立てていかなければいけないことだが、これまで以上にそこに力を入れるべきという感じだった。)生活科は小単元がいくつかあるが、各小単元での「目指す姿」を積み重ねていくことで、ゴールに近付いていくので、単元構想しながら、実践面で児童の「気づき」「様子」から修正を加えていくことも必要であることも学ぶことができた。時には考えてきたことを変更しなければいけない場面も出てくると思うが、「明確な姿」さえ持っていればその点も補えると思った。

本単元では、家庭の協力もたくさんいただく必要があった。そのこともまた、児童の意欲につながった。家庭と協力して付けた力が地域の方への発展的活動へと結びついたので、「地域」を考える時に1年生では、「家庭」も社会の小集団として立派な位置づけになることがわかったことが個人的には良かった。

～今後の研究の方向性について（今回の研究で明らかになったことを踏まえ）～

① 目指す児童の姿、付けたい力を実現できる単元構想力。

学びの組み立ては、実態に即しつつも、目標に即して1段ずつ積み上げていくしかない。

② 「ていねいに積み重ねる」こと。ポートフォリオなどの肯定的評価、学級集団としての学ぶ力など。

③ 「大事なことは子どもからの発信に」教師からではなく、子どもに気づかせることを大切に